

認定看護師・専門看護師 分野一覧

【別紙1】

分野名	知識と技術(一部) *日本看護協会HPより抜粋	研修内容
精神看護	精神疾患患者に対して水準の高い看護を提供する。また、一般病院でも心のケアを行う「リエゾン精神看護」の役割を提供する。	精神疾患患者とのかかわり方
認知症看護	・認知症の各期に応じた療養環境の調整およびケア体制の構築 ・行動心理症状の緩和・予防	せん妄と認知症 認知症患者のアセスメント 急性期病院におけるケアについて コミュニケーション方法 認知症の人の困り事(本人の声) 退院支援ケアチーム体制の構築 院内デイ 内服管理 抑制しない看護 療養環境の作り方 BPSDの予防と対応 パーソンセンタードケア
緩和ケア	・疼痛、呼吸困難、全身倦怠感、浮腫などの苦痛症状の緩和 ・患者・家族への喪失と悲嘆のケア	グリーフケア エンドオブライフケア アドバンスケアプランニング 意思決定支援における看護師の役割 退院支援スピリチュアルケア看取りのケア エンゼルケア リンパ浮腫ケア 終末期患者の家族看護 在宅での家族ケア 消化器症状 全身倦怠感がん患者の口腔トラブルとケア 鎮静中のケア スタッフケア
感染管理	・医療関連感染サーベイランスの実践 ・各施設の状況の評価と感染予防・管理システムの構築	標準予防策(手指衛生など) 疾患別感染対策 薬剤耐性菌について アウトブレイクの対応 ノロウイルス インフルエンザ対策 職員の感染予防 施設マニュアル見直し支援 サーベイランスの活用 血液曝露防止 実技(個人防護具の着脱 吐物処理など) 施設ラウンド 在宅、介護職の感染対策 歯科、眼科クリニックでの感染対策
皮膚・排泄ケア	・褥瘡などの創傷管理およびストーマ、失禁等の排泄管理 ・患者・家族の自己管理およびセルフケア支援	褥瘡 ポジショニング演習 スキンケア スキンテア ストーマケア 医療関連機器圧迫創傷 オムツの選択や交換方法 自己導尿のセルフケア支援 排尿自立に向けた支援 失禁ケア フットケア
がん化学療法看護	・がん化学療法薬の安全な取り扱いと適切な投与管理 ・副作用症状の緩和およびセルフケア支援	抗がん剤の基礎知識 安全な投与と曝露対策 抗がん剤の副作用 薬物療法を受けながら在宅療養を続ける患者への支援 内服化学療法中の看護治療期の意思決定支援 就労サポート 家族看護 アピアランスケア(外見のケア)
がん性疼痛看護	・痛みの総合的な評価と個別的ケア ・薬剤の適切な使用および疼痛緩和	医療用麻薬の知識と管理 具体的な疼痛の聴き分け方 痛みのアセスメントと薬物的アプローチについて 神経ブロック高齢者の痛みのケア 認知症がん患者の疼痛ケア
がん放射線療法看護	・がん放射線治療に伴う副作用症状の予防、緩和およびセルフケア支援 ・安全・安楽な治療環境の提供	放射線治療による有害事象と部位別のケア セルフケア 安全安楽な治療環境の提供 他職種チームで取り組む放射線療法 スキンケア 皮膚炎のケア
がん薬物療法看護	・がん薬物療法の適正な投与管理とリスクマネジメント、暴露対策 ・がん薬物療法に伴う症状緩和・自宅での治療管理や有害事象に対応するための個別的な患者教育 ・患者・家族の意思決定支援と療養生活支援	抗がん剤の基礎知識 抗がん剤の副作用 安全な投与と曝露対策 内服化学療法中の看護
乳がん看護	・集学的治療を受ける患者のセルフケアおよび自己決定の支援 ・ボディイメージの変容による心理・社会的問題に対する支援	若年乳がん患者へのケア 意思決定支援 ボディイメージ変容に対する支援 アピアランスケア リンパ浮腫の予防 リンパ浮腫発症後のセルフケア(上肢) 乳がんと妊孕性 遺伝性乳がん 卵巣がん症候群(遺伝カウンセリング)自己検診
救急看護	・救急医療現場における病態に応じた迅速な救命技術、トリアージの実施 ・災害時における急性期の医療ニーズに対するケア ・危機状況にある患者・家族への早期的介入および支援	急変徴候、異常徴候の捉え方 急変時の対応 一次救命処置 二次救命処置 院内トリアージ フィジカルアセスメント バイタルサイン測定の基本 アナフィラキシーショック 敗血症での看護 危機状況にある患者家族看護 救急カーットの管理について

分野名	知識と技術(一部) *日本看護協会HPより抜粋	研修内容
集中ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の危機状態にある患者の病態変化を予測した重篤化の予防 ・廃用症候群などの二次的合併症の予防および回復のための早期リハビリテーションの実施 	フィジカルアセスメント バイタルサインの考え方 急変を見逃さない観察呼吸循環の基礎 不整脈への対応 敗血症の看護 深部静脈血栓症予防 ルートドレーン管理 人工呼吸器管理とケア 酸素療法 気切カニューレの管理 手術後の看護 術後合併症 RRSについて 早期リハビリテーション
新生児集中ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイリスク新生児の病態変化を予測した重篤化の予防 ・生理学的安定と発育促進のためのケアおよび親子関係形成のための支援 	ハイリスク新生児に対する親子関係形成 人工呼吸器装着中のケア NICU入院中の母乳ケア 出生立ち合いにおける看護 出生前訪問と意思決定支援
摂食・嚥下障害看護	<ul style="list-style-type: none"> ・摂食・嚥下機能の評価および誤嚥性肺炎、窒息、栄養低下、脱水の予防 ・適切かつ安全な摂食・嚥下訓練の選択および実施 	嚥下のメカニズム 生活に活かせる運動 高齢者の嚥下障害 口腔ケア 誤嚥性肺炎の予防 食事介助の基礎演習 認知症の方への食事支援 終末期栄養の意志決定支援 ACP
訪問看護	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養者の主体性を尊重したセルフケア支援およびケースマネジメント看護技術の提供と管理 	在宅復帰に向けての移行支援 病院とステーションの連携 セルフケア向上への看護 地域包括ケアにおける看護師の役割 家族看護 他職種連携 ACP ターミナルケア 訪問看護での倫理的問題
手術看護	<ul style="list-style-type: none"> ・手術侵襲を最小限にし、二次的合併症を予防するための安全管理(体温・体位管理、手術機材・機器の適切な管理等) ・周手術期(術前・中・後)における継続看護の実践 	術前評価 術中の急変対応 周術期の疼痛管理 術中術後の合併症 麻酔が患者に与える影響 心理支援 ラテックスアレルギー 患者と家族の心理支援 手術体位の工夫 体温管理 周術期口腔ケアについて チームワーク 手術を受ける小児への関わり 喫煙が麻酔に与える影響 気腹による影響
糖尿病看護	<ul style="list-style-type: none"> ・血糖パターンマネジメント、フットケア等の疾病管理および療養生活支援 	糖尿病の基礎知識 治療とケア 糖尿病性腎症予防 インスリン治療導入時のケア 血糖パターンマネジメント 医療安全 インスリンインシデント 化学療法をうける糖尿病患者の血糖管理とケア 妊娠糖尿病 フットケア
脳卒中リハビリテーション看護	<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中患者の重篤化を予防するためのモニタリングとケア ・活動性維持・促進のための早期リハビリテーション ・急性期・回復期・維持期における生活再構築のための機能回復支援 	脳卒中の病態と特徴 最新治療 初期症状と対応 合併症予防 機能評価 退院指導 ポジショニング 安全安楽なトランスファーと体位変換 腰痛予防 再発予防 生活の中でできるリハビリテーション看護 嚥下リハビリ 口腔ケア 廃用症候群とその予防について 患者体験から考える看護の技 危険防止対策 高次脳機能障害への看護
透析看護	<ul style="list-style-type: none"> ・安全かつ安楽な透析治療の管理 ・長期療養生活におけるセルフケア支援および自己決定の支援 	血液透析、腹膜透析の看護 自己管理支援 シヤント管理 腎代替療法選択に対する意思決定支援 慢性腎臓病の療養生活について 腎不全教室について 生体腎移植術前後のサポート
慢性心不全看護	<ul style="list-style-type: none"> ・安定期、増悪期、終末期の各病期に応じた生活調整及びセルフケア支援 ・心不全増悪因子の評価およびモニタリング 	心不全の病態、症状治療について 心臓リハビリテーション 退院指導 在宅におけるケア 心不全増悪因子回避のためのセルフケア支援 日常生活指導
慢性呼吸器疾患看護	<ul style="list-style-type: none"> ・安定期、増悪期、終末期の各病期に応じた呼吸器機能の評価及び呼吸管理 ・呼吸機能維持・向上のための呼吸リハビリテーションの実施 ・急性増悪予防のためのセルフケア支援 	呼吸フィジカルアセスメント 息切れのアセスメント 呼吸ケア 口腔ケア 在宅酸素療法について 吸入療法について COPDのセルフマネジメントについて 禁煙支援 外来指導(禁煙、吸入、HOT、NPPV) 在宅における呼吸器疾患看護 在宅リハビリ 吸引方法 排痰援助 小児の呼吸ケア 重症心身障害児の看護
遺伝看護	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝看護専門看護師は対象者の遺伝的課題を見極め、診断・予防・治療に伴う意思決定支援とQOL向上を目指した生涯にわたる療養生活支援を行い、世代を超えて必要な医療・ケアを受けることができる体制の構築と、ゲノム医療の発展に貢献することを目的として養成され活動しています 	心身の安寧を目指し、症状のコントロールなどの直接的なケアの提供 遺伝にかかわる専門的な医療の活用に関して、意思決定の支援 家族の個々の意思を尊重しながら、遺伝情報の共有についての支援 安定した社会生活が送れるように、社会資源の活用についての支援